

機関番号：34303

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20500878

研究課題名（和文） インド伝統医学の理論と実践に関する調査研究

研究課題名（英文） Study on the Theory and Practice of Traditional Medicine in India

研究代表者

山下 勤 (YAMASHITA TSUTOMU)

京都学園大学・経営学部・教授

研究者番号：00319435

研究成果の概要（和文）：本研究は、これまで学術的な研究対象として取り上げられることが少なかったインド伝統医学を、インド文化の重要な構成要素の1つとしてとらえ、その実相を解明するために必要な資料・記録を整備し、今後の研究活動の基盤として利用できるようにすることを目標としたものである。主として（1）インド伝統医学文献およびその写本資料の収集と調査研究、（2）インド伝統医学理論の発達史に関する研究、（3）インド伝統医学における臨床治療の実態に関する資料収集および調査研究を行い、それぞれの成果を学術論文および学会発表の形で明らかにすることができた。また、本研究の成果の一部であるインド伝統医学テキストデータベースをインターネット上で継続的に公開することとした。

研究成果の概要（英文）：We dealt with traditional Indian medicine as a part of Hindu culture and organized research materials in this area. In particular, we conducted the following investigations and researchs: (1) Collecting research materials and study on the classical texts of traditional Indian medicine; (2) Study on developmental history of the medical theories of traditional Indian medicine; (3) Collecting research materials and study on the clinical treatments of traditional Indian medicine. We have published our text database of the classics of traditional Indian medicine on the Internet.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史 科学社会学・科学技術史

キーワード：医学史、インド学、インド伝統医学

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の背景

今日、世界の各民族によって伝承されてきたそれぞれの地域の伝統医学の価値が見直され、現代医療の補完あるいは代替として、積極的な意義を見出そうとする動きがある。また現代医学の立場から、伝統的な医療・医薬

の医学的有効性を実証しようとする研究も盛んである。しかし、伝統的な医療を本来の文化的背景から切り離し、安易に現代医学の文脈の中に取り込んで利用しようとしても本来的な効果は期待できず、場合によっては医学的に危険な状態をもたらすおそれさえないとは言えない。そこで、まずはそれぞれの伝統

医学の実態を理論と実践の両面から正しくとらえ、各地域の自然環境と民族文化の中で、歴史的にどのような役割を果たしてきたのかを正当に評価することが不可欠となる。

本研究ではこのような観点から、インド伝統医学をインド文化の重要な構成要素の1つとしてとらえ、その実相を解明するために、医学理論と治療実践についての資料・記録を整備し、今後の研究活動の基盤として利用できるようにすることを目標とした。

(2) 従来の日本のインド学と本研究との関連

サンスクリット文献学を中心とした日本のインド学は、明治期以来の長い伝統があり、数多くの研究が蓄積されてきている。しかしその大半は、仏教教典やヴェーダ文献に見られる思想など古代インドの哲学・宗教に偏っており、インドに古くからある独自の医学、建築学、政治学などの豊かな実学の研究には十分な努力が払われてきたとは言いがたい。そのため、これらの実学分野の研究はその重要性にも関わらず、とりわけ日本では研究の蓄積が少なく、本格的な研究の発展を困難にしている。このような現状にあって、本研究ではあえてインド伝統医学を取り上げ、調査・研究を進めることによって、今日まで充分には認識されていなかったインド文化に特有の身体観・生命観の一端が解明され、さらには生理学のおよび病理学的な知見が極めて具体的に明らかになることが期待された。

(3) 従来の医学史研究と本研究との関連

伝統医学を含むどのような医療体系においても、まずはそれぞれに特有の医学理論に基づいて、患者の心身の状態が診断され、その結果に応じて治療方法が決定される。従って、それぞれの医療体系の特質を把握するためには、治療方法や薬の使い方などの治療実践のあり方だけではなく、個々の治療行為の根拠となっている医学理論を理解することが肝要である。これまでの伝統医学についての研究は、「理論」と「実践」のどちらかに偏った研究が多く、医学理論と治療実践が有機的に結びついた伝統医学の実相を理解しようとした例は少ない。本研究はこのような反省に基づいて、インド伝統医学を「理論」と「実践」の両面から包括的に捉えることを目標とした。

2. 研究の目的

インド伝統医学（アーユルヴェーダ）は、インド亜大陸のみならず東南アジアや中央アジアの伝統医学にも大きな影響を及ぼし、今日のインドにおいても医療・保健システムの

1つとして活用されている。主にインドの学術言語サンスクリットによって書き継がれてきた医学書や薬物処方書などが数多く残されており、古典的な評価を得た伝統医学文献は、生きた文化遺産として現在でもインドの伝統医たちによって用いられ、インド政府によって承認されたインド伝統医科大学の教科書として利用されている。今日までに蓄積された膨大な医療・医薬についての知識や、独自のインド医学理論を理解するためには、これらのインド医学文献の資料整備と研究が不可欠である。

インド医学理論の萌芽は古くはヴェーダ文献中に見いだされ、やがてインド哲学のうちのヴァイシェシカ学派やサーンキヤ学派の理論を取り込みつつ次第に発展し、医学文献においては理論と治療実践の有機的な結びつきが重視されることとなる。またジャイナ教や仏教の文献中にも医学知識や治療実践についての様々な記述が見られる。

本研究ではこれらインド医学理論の発展過程についての文献学的研究を進めた。また、古くからの純粋なインド医学は、近代医療の普及に伴って次第に衰退しつつあるが、現在でも南インド・ケーララ州などには古医方を伝える伝統医の家系がわずかながら存続しており、地域医療に貢献している。本研究ではこれらインド伝統医の古来の治療実践について現地調査を行った。本研究は以上のようにインド伝統医学を「理論」と「実践」の両面から包括的に捉えることを目的としたものである。

3. 研究の方法

主にインド伝統医学文献に関するサンスクリット文献学の手法を用いた研究と、インド・ケーララ州での複数回の現地調査による。具体的には次の3項目である。

(1) インド伝統医学文献およびその写本資料の収集と調査研究

(2) インド伝統医学理論の発達史に関する研究

(3) インド伝統医学における臨床治療の実態に関する資料収集および調査研究

4. 研究成果

(1) インド伝統医学文献およびその写本資料の収集と調査研究

①既に出版されている医学文献に関する調査・研究

これまでに出版されている主にサンスクリット語で記されたインド医学文献資料を可及的に数多く収集し、その作者、成立年代、内容、医学理論などについて調査・研究を行

った。本研究で特に取り上げたインド医学文献は、『チャラカ・サンヒター』、『スシュルタ・サンヒター』、『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』である。本研究では特に主な医学書の註釈文献についても解説を進めた。註釈文献としては、『チャラカ・サンヒター』に対するチャクラパーニダッタとジャッジャタの註釈を取り上げた。ジャッジャタの註釈文献に関する研究では、デンマーク・コペンハーゲン大学の Kenneth G. Zysk 教授の協力を得た。

②インド医学文献本文のテキストデータベース化

これまでに本研究代表者（山下）によって『チャラカ・サンヒター』、『スシュルタ・サンヒター』、『アシュターンガ・サングラハ』、『ペーラ・サンヒター』のテキスト本文の入力が終了している。本研究では、その校正作業を進め、その一部をインターネット上で継続的に公開中である。アドレスは以下の通り。
<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~yanom/sanskrit/ayurveda/>

また、他の古典医学書テキストの入力作業を行った。

③インド伝統医学の医学写本に関する調査

インド国内、主としてケーララ州の図書館、文書館、あるいは伝統医の家系に伝わる医学文献の写本資料に関する調査を行った。特に重要な写本に関しては、所蔵者の許可を得て、その各ページをデジタルカメラを用いて撮影し記録を作成した。既に撮影を終えた写本や、これまでに新たに本研究代表者（山下）らによって発見された写本に関しては、さらにその内容に関して調査を進めた。

（2）インド伝統医学理論の発達史に関する研究

インド伝統医学書『チャラカ・サンヒター』とその註釈文献、『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』および『アシュターンガ・サングラハ』等の医学理論に関する章を中心として読解を進めた。また、山中行雄氏（佛教大学総合研究所非常勤嘱託研究員）の協力を得て、仏教文献に見られる医学的記述を読解し、インド伝統医学書に見られる同様の記述との比較によって、インド医学理論とその文化的背景について研究を進めた。

（3）インド伝統医学における臨床治療の実態に関する資料収集および調査研究

インド・ケーララ州の医療伝統継承者について調査し、それぞれの伝統医に面会し、インタビューを行い、インド伝統医学の伝統的教育法や治療実態などについて調査し、記録を作成した。この一部については、既に eJournal of Indian Medicine 誌に発表した。

調査実施に際して、インド・ケーララ州 Calicut University (P.Nair 名誉教授)、P. Ram Manohar 氏 (AVP 高等研究所 リサー

チ・ディレクター)、Madhu K. Parameswaran 氏 (インド伝統医学医師) の協力を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① Tsutomu Yamashita, P. Ram Manohar, “Memoirs of Vaidyas, The Lives and Practices of Traditional Medical Doctors in Kerala, India (2)” *Electronic Journal of Indian Medicine*. 査読有、Vol. 1, No. 3, 2008, pp. 117-139.

② Tsutomu Yamashita, P. Ram Manohar, “Memoirs of Vaidyas, The Lives and Practices of Traditional Medical Doctors in Kerala, India (3)” *Electronic Journal of Indian Medicine*. 査読有、Vol. 2, No. 2, 2009, pp. 25-51.

③ Tsutomu Yamashita, P. Ram Manohar, “Memoirs of Vaidyas, The Lives and Practices of Traditional Medical Doctors in Kerala, India (4)” *Electronic Journal of Indian Medicine*. 査読有、Vol. 3, No. 1, 2010, pp. 23-52.

④ Tsutomu Yamashita, Brahmadathan U. M. T., Madhu K. Parameswaran, “Traditional Poison-healing System in Kerala: an Overview.” *Electronic Journal of Indian Medicine*. 査読有、Vol. 3, No. 3, 2010, pp. 101-117.

[学会発表] (計3件)

① Tsutomu Yamashita, Kenneth G. Zysk, “Critical Edition and Translation of Jajjata’s Nirantarapadavyakhya on the Carakasamhita, Cikitsasthana 2.1.1-4ab.” The 4th International Workshop on Classical Indian Medicine, Textual Tradition of Ayurveda. インド・コインバトール、The Arya Vaidya Pharmacy、2008年8月21日

② Tsutomu Yamashita, Kenneth G. Zysk, “Jajjata’s Nirantarapadavyakhya as an Early Commentary on the Carakasamhita.” The 14th World Sanskrit Conference. 京都、京都大学、2009年9月4日

③ Tsutomu Yamashita, Kenneth G. Zysk, “Jajjata’s Nirantarapadavyakhya on the Carakasamhita Cikitsasthana 2.1.1-8ab.” The 5th International Workshop on Classical Indian Medicine, The Transmission of Sanskrit Medical Literature in India. デンマーク・コペン

ハーゲン、コペンハーゲン大学、2010年11月13日

④山下 勤、「ジャッジャタによる『チャラカ・サンヒター』への註釈について」、インド思想史学会第17回学術大会、京都、京都大学、2010年12月25日

〔図書〕(計1件)

①吉富 和雄、長谷川 正、山下 勤、松田 哲、京都学園大学総合研究所叢書12『アジアにおける若干のトポロジー』京都学園大学総合研究所、2011年3月31日

〔その他〕

ホームページ

インド医学文献テキストデータベース

<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~yanom/sanskrit/ayurveda/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山下 勤 (YAMASHITA TSUTOMU)

京都学園大学経営学部教授

研究者番号：00319435